

SCOPE

Coverphoto・Essay / Ikuo Nakamura



ヒトデキラーのフリソデエビ

水深30mの海底で撮影を終え、浮上を開始したそのとき、私の視界にとんでもない生物が飛び込んできた。

フリソデエビである。それもつがいた。大きい固体は3cmほどで、もう1匹はひと回りほど小さい。

私にとってフリソデエビは、それこそ幻の生物といっても過言ではなかった。それまで日本で確認されたのはわずか3ヶ所。小笠原諸島、沖縄県、そして和歌山県のみである。その貴重種が今、私の目の前に自然の姿で現れたのだ。

このエビは、第一歩脚が振袖のような形をしているところから命名された。第一歩脚の先には小さなハサミがあり、これで餌を切り刻むことができる。体の割にはややオーバーとも思える大きな脚だが、近づくとこの両足を高くかかげ、「来るなら来い!」という大胆なポーズをとる。この脚は相手を威嚇するときも用いるようである。

とても愛らしいフリソデエビだが、好物はなんとヒトデの仲間である。それも自分の体の何倍もある大きなヒトデを好んで食べる。他の脚の一部をヒトデに突き刺し、バラバラにしたところをフリソデ部分の小さなハサミで、ヒトデの柔らかな部分をつまむようにして食べる。

観賞にも最適なフリソデエビだが、ヒトデキラーの異名を持つのも事実。さてあなたは水槽で飼育する勇氣はあるだろうか？



©IKUO NAKAMURA

Profile

中村征夫(なかむら・いくお)

1945年 秋田県生まれ。20歳のとき自己流で潜水を始め、撮影プロダクション水中造形センターを経て77年よりフリーの水中写真家に。著書・作品集は『全・東京湾』『海中顔面博覧会』『白保』(情報センター出版局)、『ガラパゴス』(集英社)、『カムイの海』(朝日新聞社)、『海のなかへ』『熱帯夜』(小学館)、『沖縄珊瑚海道』(アスペクト)など多数。第13回木村伊兵衛写真賞、第9回文化庁芸術作品賞、第12回東川写真特別賞、第28回講談社出版文化賞写真賞、ほか受賞多数。8月は、名古屋で大型インクジェットプリントによるB0サイズの写真展「海の季節」を開催(8/1~8/12・名古屋セントラルパーク)



編集後記

今号のFINDは、サッカーW杯に手に汗握りつつ制作しました。皆様のお手元に届く頃には、どこの国が新たなチャンピオンとなっているのでしょうか。でも、このサッカーボール。上質な手縫いの物の多くは、アジアでの過酷かつ低賃金な児童労働によるものなのだそうです。FIFAは、今回のW杯で児童労働に一切関与しないボールのみを採用しました。このサッカーボールのように私達が何気なく手にしているモノの背景に国際問題があったとは、私達もモノを「買う」という行為を通して、生産している人達を劣悪な環境へ追いやってしまうことも、反対に彼らを支援することもできるのだと考えさせられたW杯でした。(T.S)

FIND 2002年7月発行 Vol.20 No.4 通巻98号

発行 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

企画編集 FIND編集委員会

お問い合わせ先 富士通株式会社 電子デバイス営業本部

FIND編集事務局

〒163-0721

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

TEL 03-5322-3326 FAX 03-5322-3395

株式会社シーコーポレーション

印刷